



園だより

文京区立第一幼稚園
令和3年度11月号

相手の思いを受け止める姿から

園長 田村 秀子

朝夕は大分風が冷たくなってきました。保育室には、子供たちや教員が休みの日に近くの公園などで拾ったドングリや木の実、園庭で拾った落ち葉などが置かれ、それを使って遊びを工夫する姿も見られます。

10月の「のびのびチャレンジデー」については、アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。保護者の方々に参観していただくことはできませんでしたが、動画をその日に配信でき、ご家族で動画を見ながら楽しんでいただけたことが分かり、嬉しく思いました。観客がいない分、小学校の体育館を広く使うことにし、初めての場をぐるぐる走るマラソンからスタートしました。その姿はわずかしか配信していませんが、各学年が音楽を聞きながら先生や友達と一緒に走る姿は楽しそうで、一生懸命走り続ける姿に一人一人の成長を感じました。様々なご意見を生かし、今後も状況に応じて工夫しながら、子供たちの豊かな体験を保障していきたいと思えます。

先日、鬼遊びでぶつかって転び、泣いてしまった子がいました。ぶつかった子はすぐ泣いている子に近付いていき、近くに座って「痛かったでしょう。ごめんね」と言ったそうです。いつもは気持ちを立て直すまでに時間のかかることもあるお子さんでしたが、その一言ですぐ笑顔になり、また皆と一緒に遊び始めたということでした。友達の痛さに共感する言葉をさりげなくかけてあげる姿に、いいところあるなあとその子のよさを感じるとともに、家庭でもそのような言葉をかけてもらっているんだろうなと思えました。自分の子育てを振り返ると、「～しないで」「～して」と指示する言葉や叱る言葉が多く、受け止める言葉をどのくらいかけたかとうかがって反省します。

幼児期に人やものとの関わりの基礎をつくることを「しつけ」と言いますが、しつけとは叱ることではなく、心地よい体験を積み重ねる中で、自分も皆も気持ちよく過ごせるよい行動が自然と身に付くようにしていくことです。日々の関わりの中で自分の気持ちを温かく受け止めてもらった嬉しさや、どうしてそうするのか分かりやすく教えてもらったことが、生活する力の基礎となっていきます。

今、年長組は学年で「遊園地」を作り始めています。どんなことを話し合っているのか聞いてみると、「どんな電車にする?」「特急がいいよ」「新幹線は?」「速い電車はいやだ。気持ち悪くなったことあるから」「そうなんだ。でも乗るのは〇〇ちゃんじゃないよ。お客さんだから」「特急って聞いただけでいやなんだ」「そうか。それじゃ、ゆっくり走る電車にする?」「何かイメージわかないな」「絵本の部屋に電車の本があるよ」「京葉線は?」「地下鉄もあるよ」など自分の思いを伝え、友達の思いも受け止め合って話が進んでいきます。自分の素直な思いを言葉で伝える姿や、相手の思いを受け止め、自分の考えも伝えて話し合いを進めようとする姿に成長を感じました。家庭での体験、年少・年中時の温かい体験が積み重なり、今の姿につながっていると思えます。

「遊園地」が出来上がるまでには、思い通りにならないことやうまくいかないこともたくさんあると思えますが、友達や先生と話し合い、力を合わせて実現させていくことでしょう。年中組や年少組も、自分のやりたい遊びに意欲的に取り組み、いろいろな物を作ったり表現したりして、友達と関わりながら遊んでいます。互いの思いを伝え合い、受け止め合って、楽しい表現遊びや運動遊びが展開される秋にしたいと思えます。